

研究計画書

ゼミ名	小林ゼミⅡ	チーム名	E and S
タイトル	後期医療制度改革		
テーマ群	c)公共経済		
メンバー	請川豊巳、江口竜大、越村啓、小林裕太郎、佐々木祐輔、佐村優、柴原圭輔、正垣結香、高橋奈美、元木春志		
研究計画内容	<p>医療分野が抱える問題は様々ですが、政策的な課題となっているのは、「医師不足問題」と「後期高齢者医療制度の見直し」の二つであると考えています。</p> <p>まずは「医師不足問題」を説明すると、実は、国民 1000 人当たりの医師数は着実に増えています。ではなぜ、「医師不足問題」が起きるのかということ、偏在問題が挙げられます。リスクの高い勤務医や過疎地の地方病院は人気がないためです。そのために政府は「診療報酬」により、給料に報酬を上乗せし需給調整を行いました。しかし、医療機関の総収入が莫大であるために、診療報酬では偏在問題を解決できていないことが問題となっています。</p> <p>次に「後期高齢者医療制度の見直し」の問題としては、「高齢化による医療費急増にどのように備えるか」という視点は欠如していて、「高齢者の医療費は誰が負担するか」という押し付けあいの議論を行っているだけ、というのが原因です。</p> <p>調査や検討の結果、この二つの問題は、経済学的に見た場合、原因は共通し単純なものであり、それは、政府の行った対策にあります。</p> <p>少子高齢化における医療の需要と供給と、財政問題に対処するために、政府が行ってきたことは、規制強化や負担のルール見直しといった小手先の対処法にすぎませんでした。これは実質的な問題の先送りであり、問題への根本的な対処をしなかったことが問題を悪化させ、大きな社会問題に発展させてしまった原因だと言えます。</p> <p>私たちは抜本的な改革が必要だと考え、どのような解決策が必要なのか考えることにしました。</p>		